

企画構想学科の新2・3・4年生が「ガソリンスタンドの次世代モデル」を企画・提案 遠藤商事と連携し新規事業の検討に取り組み、4/8(水)に成果発表・表彰式を開催

東北芸術工科大学（山形市上桜田／学長 中山ダイスケ）企画構想学科では、学生の企画書作成に伴う学びの創造力強化として、年3回、学科内の企画コンペティション「企画書展」を開催しています。

今回は、山形県内でエネルギー事業を展開する遠藤商事株式会社（山形市穂積／代表取締役社長 遠藤靖彦）と連携し、「ガソリンスタンドの新たな価値創出」をテーマとした実践型プロジェクトを実施し、企画構想学科の新2～4年生（企画検討時1～3年生）が今年の1～2月にかけて新規事業の企画検討に取り組みました。この度、提出された約100件の事業プランから、優れた18作品を選出しました。選出された作品の企画書は遠藤商事へ進呈されます。また、その作品の表彰式と成果発表を4月8日（水）に開催いたします。

学生が地域課題と向き合いながら、企業との連携を通じて社会に新たな価値を創出する本取り組みを多くの皆様にお知らせしたく、取材のお願いを申し上げます。

■「企画書展」優秀作品 成果発表及び表彰式

【日 時】2026年4月8日（水）11:30～12:00

【会 場】東北芸術工科大学（山形市上桜田3丁目4番5号）本館2階 201 講義室

【内 容】(1) 優秀作品の表彰

(2) 学生による優秀作品の企画概要紹介

(3) 遠藤商事 代表取締役社長 遠藤靖彦 氏による挨拶・講評

■プロジェクト概要

- 「モビリティ」「コミュニティ」「環境エネルギー」等の視点から、実現可能性の高い新規事業を構想
- 4週間の短期集中型プログラムとして実施（プロセス：ユーザー調査・地域課題の分析／現地視察による実態把握／ビジネスモデル設計／収支シミュレーションの構築）
- 今後、遠藤商事と連携し、優秀作品の実証・事業化を検討

■本取り組みの意義

本プロジェクトは、燃料需要の減少や人口減少といった地域課題を背景に、従来のガソリンスタンドの役割を再定義し、次世代の地域拠点としての可能性を探ることを目的としています。単なるアイデア創出にとどまらず、**地域インフラを「給油所」から「地域価値創造拠点」へ転換する試み**です。

人口減少が進む地方において、ガソリンスタンドは単なるエネルギー供給拠点ではなく、「地域コミュニティのハブ」「次世代モビリティの接点」「環境・エネルギーの分散拠点」としての役割が期待されています。

学生ならではの発想と実務視点を融合させることで、**地域企業と大学が共創する新たなビジネスモデル創出の可能性を提示**します。